

3日間の修学旅行

修学旅行を無事迎えた3年生の充実しきった満足げな表情や笑顔はもちろんのこと、大きな発見と成長を肌で感じることでできた3日間でした。緊急事態宣言下の入学式に始まり、1年時の曾我井での防災炊き出し訓練が唯一の校外学習であったこの学年にとって、本当にかげがえのない時間となりました。先生方の強い思いがあり進めてまいりましたが、保護者の皆様のご理解とご支援があってこそその無事成功であったと思います。深く感謝いたします。沖縄県立開邦中学校、那覇市立那覇中学校、那覇市立首里中学校、那覇市立上山中学校の先生方から、計画の実施のための現地情報を提供していただきました。

沖縄は梅雨入りをしており心配しましたが、要所要所で天候に恵まれ、写真を撮ることができました。私は沖縄への修学旅行は4回目になりますが、最も印象深く、適した旅行先と考えています。亜熱帯の透き通った海を見た時の驚き、異文化体験、平和学習。14年前、前々任校以来になりますが、那覇空港からのバスの車窓から見える景色は相変わらずで、屋根の上の貯水タンクが目につき、川がない、別の歴史・文化を持つ島であることを痛感しました。

バスガイドさんの話は米軍との地上戦が中心で、糸満市に一家全滅の家があるエリアがまだ残されていると聞きました。壕に入る前後に平和ガイドさんから全く同じ話をききましたが、しっかり聴け、夜に作文を書き上げました。唯一の地上戦となった場所で、肌で感じる戦争の爪痕に、ニュース映像で見るウクライナの惨状が身近に感じられました。子供たちがつくる未来において、絶対に繰り返してはならない教訓として伝えていかなければなりません。

平和祈念公園の平和の礎で修学旅行実行委員である横田彩羽さんが読み上げたメッセージを裏に掲載します。この文章は校長先生方を始め、那覇の中学校や末松文部科学大臣にも送らせていただき、感銘を受けたとコメントをいただきました。三坂真嗣さんがみんなで作った千羽鶴を献納しました。1972年、当時私は小学生でしたが、その間、漫画は復帰後の沖縄の惨状を伝える話ばかりだったと記憶しています。沖縄復帰後50年という節目の年に訪れることができたことも忘れ難いこととなりました。

この旅行の経験が3年生を大きく成長させ、間違いなくこれからの中学校生活を立派にリードしてくれること、良き伝統として2年生に受け継ぐものを残してくれたことを確信しました。



平和へのメッセージ

先日、沖縄県が本土に復帰して 50 年がたちました。50 年たった今でも日本にある米軍基地の約 7 割が沖縄県に集中しています。それをきいて私はまだまだ戦争は終わっていないのだなと感じました。

ここ沖縄では、太平洋戦争の唯一の地上戦が行われました。この戦いで軍人住民合わせて約 20 万人というたくさんの尊い命が犠牲となりました。今でもロシアとウクライナの戦争で多くの人々の命が犠牲となっており、一刻も早く戦争が終わり、世界に平和が訪れることを願っています。

そして、ここ平和祈念資料館では、住民が体験した沖縄戦の様子や戦争が終わって平和を目指す沖縄の人々の姿を、映像や模型で見ることができました。改めて戦争の恐ろしさや平和の大切さを強く感じました。

今、私たちがこうして修学旅行で訪れていることも当たり前のことではありません。毎日勉強ができて、友だちと話せて、ご飯が食べられることも当たり前ではありません。

これからの日本は私たちが作って行きます。一つ一つ、何事にも感謝の気持ちを忘れず、この先ずっと日本が平和であり続けられる様、学び続け、考え続けていきます。

平和の礎に於いて千羽鶴献納

令和 4 年 5 月 27 日

兵庫県たつの市立新宮中学校 修学旅行実行委員 横田彩羽